

平成 28 年度 第 5 回「防災スペシャリスト養成」企画検討会

議事概要

1. 検討会の概要

日 時：平成 28 年 12 月 13 日（火）15:00～17:00

場 所：中央合同庁舎 8 号館 5 階 共用 A 会議室

出席者：林座長、井ノ口委員、牛山委員、大原委員、鍵屋委員、国崎委員、黒田委員、
重川委員、田村委員、丸谷委員
加藤政策統括官（途中退席）、安邊参事官、重高企画官、山田参事官補佐、
田口参事官補佐

2. 議事概要

議題ごとに各委員による意見交換を行った。主な意見等は次のとおり。

(1) 前回の補足説明について

<事前学習の実施>

- テスト形式（○×形式）の事前学習は、何点取れるかではなく、どういうことを学ぶのかについて、その概略を事前に理解してもらうことが目的である。
- コース特有の知識については、各コースの「総論」の標準テキストをあらかじめ作成し、テストと併せて受講者に送付できるとよい。
- 現時点の「総論」のテキストは、必ずしも全体を踏まえた内容になっていないところがある。受講生がより理解しやすいよう、他のテキストの要素を足すなど改善したい。

<「総論」の標準テキスト>

- 各コースの 1 限目の「総論」で、コーディネータが各コースの意図と構成について説明する内容を統一したフォーマットで作成することは、コーディネータの立場からしても大変よい。

<その他>

- 今後の課題に、大学や研修機関との連携についても加えておくと、防災スペシャリスト養成研修の位置づけを確認することにもつながるのではないかと。

(2) 次年度に向けたコースの見直し(知識体系の整理)

- 知識体系は、どの講師であってもぶれずに教えることができるよう、教えるべき内容として整合性のとれたものを目指していくべき。そのため、現研修のコースの枠で考えるのではなく、一旦コースを外し、知識の番地を整理するように体系化すべき。
- 知識の体系化の意味には、ナショナルスタンダードとして日本の防災を学ぶための知識体系と、防災スペシャリスト養成研修で教えるための知識体系の2つがある。ナショナルスタンダードを目指すのであれば、いろいろな体系の立て方の議論が出てくるように思われる。
- どのような知識を学ぶべきかという観点から知識体系を整理すると、次に研修を行う段階では、知識体系の中からどれを取捨選択して教えるのか、といったことを検討することになる。
- 知識体系の整理は、平成 26 年度に整理した「組織の能力を高める仕組み」(「防災スペシャリスト養成研修」企画検討会報告書 平成 27 年 3 月 p.15・p.16)の山々を達成するためにあるとすれば、そのことをしっかりとイメージして整理する必要がある。

- 標準テキストはこれまで何度か議論してきており、基本的に了解されているものである。この標準テキストを活用し、その内容をフレーム検討の手掛かりとしてはどうか。
- 標準テキストの「災害への備え」のように、その内容をマトリックスで整理できるとすれば、まず縦軸で、次に横軸で整理することをルールとして体系化できるのではないか。
- 現在の標準テキストでは、「災害への備え」のように重要な項目で明確に区分整理でいきっていないものもある。その場合、書かれている内容から区分するといったルールを決めるなど、ある程度機械的に体系案を作るように考えるとよいのではないか。
- 体系化する際の問題の多くは、親子関係の「親」の概念を何階層目に置くかということではないか。であれば、親子関係だけは手戻りがないように整理されてさえすれば、本質的な「知」のありようの議論はそれほど苦労しないだろう。概念がいったん整理できれば、その概念の下の階層は、概念と連動して階層を上下できる。
- 現標準テキストの中には5階層の軸の記載がないものがあるが、現在の標準テキスト以上にまとめた資料はなく、標準テキストを基に体系化を進めていかざるを得ない。
- 現在の標準テキストはあくまでも仮置きであり、標準テキストに引っ張られる必要はない。コースを超えて階層の整理し、整理後は階層に応じたスライドを作成し、それを標準テキストに反映させていくとよい。
- 体系の整理は難しいため、一度何らかのルールを立てて整理してみたものをベースにするしかない。手戻りはあまり気にせず整理していく方向で進めてはどうか。
- 体系化の仕方のルールとしては、①この「標準テキスト(第 1 階層～第 4 階層)」の内容を知識体系として表現することを目的とする、②それぞれのテキストの中で大きな項目から順番にブレイクダウンする、③大きな項目に入っている内容はこの階層に書

く、というように整理をしてみてもどうか。

- 体系化の仕方のルールとしては、コースにとらわれず、あくまで上位階層の内容からブレイクダウンしていくことを原則として、その中身の整理については、しっかりと検討し整理しておく。
- ルールに従って事務局が整理したのち、コーディネータや他委員がチェックする必要がある。
- 体系化を進めていくと、第 3 階層の見直しにまで及ぶことになる可能性があるが、第 3 階層以上の改善は、事務局で整理してみたうえで、今後検討していくこととする。
- 第 4 階層以降は、ボリュームや重要性に違いがある項目が並列に出てくるのが考えられる。それぞれの分野の専門家が検討して整理し、見直す必要がある。
- 災害あるいは時代によって注目される問題は変化する。ある一時期に取り上げられる問題などは、知識体系や標準テキストには記述しなくてもよいテーマではないか。